

# 基本計画書

基本計画書										
事項	区分	記入欄						備考		
計画の区分		研究科の専攻に係る課程の変更								
フリガナ設置者		コリツカクガクジツン ナラケンリツカクガク 公立大学法人 奈良県立医科大学								
フリガナ大学の名称		ナラケンリツカクガク ダイガクイン 奈良県立医科大学大学院 (Graduate School, Nara Medical University)								
大学本部の位置		奈良県橿原市四条町840番地								
大学の目的		奈良県立医科大学大学院は医学又は看護学の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めてひろく文化の進展に寄与するとともに、専門分野に関する高度の研究指導者及び専門職者を養成することを目的とする。								
新設学部等の目的		豊かな感性・人間性と高度専門職業人としての倫理観を備え、高度化・専門分化および多様化していく医療に要求される学識を有し、実践科学としての看護学の深奥を究め、自立して研究・教育を行うに必要な、高度な能力を有する人材の育成をめざす。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	【基礎となる学部等】 医学部看護学科 看護学研究科看護学専攻修士課程 第14条特例の実施	
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing)	年	人	年次人	人		年月第年次	奈良県橿原市四条町840番地		
	看護学専攻 Science in Nursing	3	2	—	6	博士(看護学)	令和6年4月第1年次			
	博士後期課程 Doctor course					(Doctor of Philosophy in Nursing Science)				
計	3	2	—	6						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行, 名称の変更等)		令和6年4月名称変更予定 看護学研究科看護学専攻 修士課程→博士前期課程								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	看護学研究科看護学専攻博士後期課程	講義	演習	実験・実習	計	13単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科看護学専攻博士後期課程			教授	准教授	講師	助教	計	助手
					人	人	人	人	人	人
					8	3	3	—	14	—
					(8)	(3)	(3)	(—)	(14)	(—)
		計			8	4	4	—	16	—
					(8)	(4)	(10)	(—)	(16)	(—)
既設	看護学研究科看護学専攻修士課程			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
				人	人	人	人	人	人	
				10	3	5	1	19	—	
				(10)	(3)	(5)	(1)	(19)	(—)	
	医学研究科医科学専攻博士課程			52	54	47	32	185	—	
				(52)	(54)	(47)	(32)	(185)	(—)	
	医学研究科医科学専攻修士課程			39	34	26	21	120	—	
				(39)	(34)	(26)	(21)	(120)	(—)	
	計			62	57	52	33	204	—	
				(62)	(57)	(52)	(33)	(204)	(—)	
	合計			62	58	54	33	207	—	
				(62)	(58)	(54)	(33)	(207)	(—)	

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
	事 務 職 員		人 77 (77)	人 99 (99)	人 176 (176)					
	技 術 職 員		12 (12)	8 (8)	20 (20)					
	図 書 館 専 門 職 員		2 (2)	5 (5)	7 (7)					
	そ の 他 の 職 員		— (—)	6 (6)	6 (6)					
	計		91 (91)	118 (118)	209 (209)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	32161 m <sup>2</sup>	—	—	32161 m <sup>2</sup>	大学全体				
	運 動 場 用 地	19540 m <sup>2</sup>	—	—	19540 m <sup>2</sup>					
	小 計	51701 m <sup>2</sup>	—	—	51701 m <sup>2</sup>					
	そ の 他	52320 m <sup>2</sup>	—	—	52320 m <sup>2</sup>					
	合 計	104021 m <sup>2</sup>	—	—	104021 m <sup>2</sup>					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体				
		34795 m <sup>2</sup> ( 34795 m <sup>2</sup> )	— ( — m <sup>2</sup> )	— ( — m <sup>2</sup> )	34795 m <sup>2</sup> ( 34795 m <sup>2</sup> )					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	16室	6室	14室	1室 (補助職員 人)	1室 (補助職員 人)					
専任教員研究室		新設学部等の名称		室 数						
		看護学研究科博士後期課程		23 室						
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	学部単位での特定不能なため、大学全体の数		
	看護学研究科博士後期課程	143462 [59140] (143462 [59140])	6027 [2105] (6027 [2105])	7818 [6197] (7818 [6197])	1126 (1126)	— (—)	— (—)			
	計	143462 [59140] (143462 [59140])	6027 [2105] (6027 [2105])	7818 [6197] (7818 [6197])	1126 (1126)	— (—)	— (—)			
図書館		面積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数		大学全体				
		1678m <sup>2</sup>	160	150,000						
体育館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体			
		1,187.5m <sup>2</sup>	テニスコート4面、弓道場、プール、相撲場							
経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計  図書購入費については、電子ジャーナル、データベースを含む
		教員1人当り研究費等		517千円	517千円	517千円				
		共同研究費等		18,030千円	18,030千円	18,030千円				
		図書購入費	935千円	935千円	935千円	935千円				
	設備購入費	1,000千円	1,000千円	1,000千円	1,000千円					
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		818千円	536千円	536千円	千円	千円	千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			運営費交付金等							

既設大学等の状況	大学の名称	公立大学法人 奈良県立医科大学							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍		奈良県橿原市四条町840番地
	医学部医学科	6	100	—	670	学士（医学）	99.0	昭和20年度	
	医学部看護学科	4	85	—	340	学士（看護学）	102.4	平成16年度	
	大学院医学研究科 博士課程	4	40	—	160	博士（医学）	127.5	昭和35年度	
	修士課程	2	5	—	10	修士（医科学）	110.0	平成20年度	
	大学院看護学研究科 修士課程	2	10	—	20	修士（看護学）	95.0	平成24年度	
附属施設の概要	名称：奈良県立医科大学附属病院 目的：診療及び臨床・臨地実習 所在地：奈良県橿原市四条町840番地 設置年月：昭和20年4月 規模：敷地面積50,096㎡、病床数992床								

教 育 課 程 等 の 概 要															
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		兼任・兼任
共通科目	看護学研究法	1前	1			○			3					2	オムニバス
	看護の理論と概念	1後	1			○			2						
	看護病態学	1通		1		○			2						オムニバス
	看護ケアシステム開発	1通		1		○			3						オムニバス
	アカデミックライティング	1通		1		○			2					1	
	看護人材育成論	1通		1		○								2	オムニバス
	小計(6科目)		—	2	4	0	—		8	0	0	0	0	4	
専門科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特論	1通		2		○		4	2				2	
		生涯発達看護学分野演習	1通		2		○		4	1	1			1	
		小計(2科目)	—	0	4	0	—		4	2	1	0	0	2	
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特論	1通		2		○		4	1				5	
		療養・生活支援看護学分野演習	1通		2		○		4	1				5	
小計(2科目)	—	0	4	0	—		4	1	0	0	0	9			
研究科目	生涯発達看護学分野	生涯発達看護学分野特別研究	2~3通		6		○		4	1	2				
		小計(1科目)	—	0	6	0	—		4	1	2	0	0	0	
	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	2~3通		6		○		4	2					
		小計(1科目)	—	0	6	0	—		4	2	0	0	0	0	
合計(12科目)		—	2	24	0	—		8	3	3	0	0	15		
学位又は称号		博士(看護学)			学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
本大学院に3年以上在学し、13単位(共通科目3単位、専門科目4単位、研究科目6単位)を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。							1学年の学期区分			2期					
							1学期の授業期間			15週					
							1時限の授業時間			90分					

教育課程等の概要																
(看護学研究科看護学専攻博士前期課程)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼任		
共通科目	看護研究方法論	1前	2			○			3						1	オムニバス
	看護理論	1前	2			○			4							オムニバス
	英文講読	1前		2		○									1	
	看護倫理学	1前		2		○			1						1	
	看護情報学	1後		2		○			6						2	オムニバス
	精神保健学	1後		2		○			1							
	家族看護学	1後		2		○			1	1					1	集中
	看護管理論	1前		2		○									1	集中
	アドバンストフィジカルアセスメント	1前		2		○			1							
	地域医療学	1後		2		○									2	
	病態生理学	1前		2		○									1	
	臨床薬理学	1後		2		○			1						3	
	医の共通科目	1前		1		○									8	オムニバス
	衛生社会医学	1前		1		○									5	オムニバス
	小計（14科目）		—	4	22	0	—	—	—	10	1	0	0	0	22	
論文コース 専門科目	心と脳の発達学特論	1前		2		○			1							
	心と脳の発達学演習	1通		4			○		1							
	心と脳の発達学特別研究	2通		8			○		1							
	睡眠学特論	1前		2		○			1							
	睡眠学演習	1通		4			○		1							
	睡眠学特別研究	2通		8			○		1							
	基礎看護学特論	1前		2		○			1							
	基礎看護学演習	1通		4			○		1							
	基礎看護学特別研究	2通		8			○		1							
	看護実践応用学特論	1前		2		○			1							
	看護実践応用学演習	1通		4			○		1							
	看護実践応用学特別研究	2通		8			○		1							
	がん看護学特論	1前		2		○			1	1						
	がん看護学演習Ⅲ	1通		4			○		1	1						
	がん看護学特別研究	2通		8			○		1	1						
	高齢者看護学特論	1前		2		○			1							
	高齢者看護学演習	1通		4			○		1							
	高齢者看護学特別研究	2通		8			○		1							
	小児看護学特論	1前		2		○			1							
	小児看護学演習	1通		4			○		1							
	小児看護学特別研究	2通		8			○		1							
	女性健康学特論	1前		2		○			1							
	女性健康学演習	1通		4			○		1		4	1				
	女性健康学特別研究	2通		8			○		1							
	周産期看護学特論	1前		2		○			1							
	周産期看護学演習	1通		4			○		1		4	1				
	周産期看護学特別研究	2通		8			○		1							
	精神看護学特論	1前		2		○				1						
精神看護学演習	1通		4			○			1							
精神看護学特別研究	2通		8			○			1							
在宅看護学特論	1前		2		○			1								

		在宅看護学演習	1通		4			○			1								
		在宅看護学特別研究	2通		8			○			1								
		公衆衛生看護学特論	1前		2			○			1	1	1						
		公衆衛生看護学演習	1通		4			○			1	1	1						
		公衆衛生看護学特別研究	2通		8			○			1	1							
		小計 (36科目)	—	0	168	0		—			10	3	5	1	0	0			
高度実践看護師教育課程	高度実践看護師教育課程	クリティカルケア看護分野 専門科目	急性病態治療学	1前		2			○									9	
			急性看護学特論	1前		2			○			1							
			急性看護学援助特論 I	1後		2			○			1							
			急性看護学援助特論 II (治療管理)	1通		2			○			1							1
			急性看護学演習 I	1通		2				○		1							
			急性看護学演習 II	1通		2				○		1	1						
			急性看護学演習 III	2前		2				○		1							
			急性看護学実習 I	1後		2					○	1							
			急性看護学実習 II	2通		2					○	1							
			急性看護学実習 III	2通		2					○	1							
			急性看護学実習 IV	2通		4					○	1							
			急性看護学課題研究	2通		2					○	1							
			小計 (12科目)	—	0	26	0		—			1	1	0	0	0	0	9	
		高度実践看護師教育課程	がん看護分野 専門科目	がん病態治療学	1前		2			○									8
	がん看護学特論			1前		2				○		1	1						
	がん看護学援助特論 I			1後		2				○		1	1						
	がん看護学援助特論 II			1後		2				○		1	1						
	がん看護学援助特論 III			1後		2				○		1	1						
	がん看護学演習 I			1前		2					○	1	1						
	がん看護学演習 II			1後		2					○	1	1						
がん看護学実習 I	1後				2						1	1							
がん看護学実習 II	2通				2						1	1							
がん看護学実習 III	2通				2						1	1							
がん看護学実習 IV	2通				2						1	1							
がん看護学実習 V	2通		2						1	1									
がん看護学課題研究	2通		2						1	1									
		小計 (13科目)	—	0	26	0		—			1	1	0	0	0	0	8		
高度実践看護師教育課程	専門科目	周麻酔期看護学特論 I	1前		2				○		1							4	
		周麻酔期看護学特論 II	1前		2				○									3	
		周麻酔期看護学特論 III	1後		2				○									3	
		周麻酔期看護学特論 IV	1後		2				○									5	
		周麻酔期看護学演習 I	1前		2					○								5	
		周麻酔期看護学演習 II	1後		2					○								4	
		周麻酔期看護学実習 I	1後		4													9	
		周麻酔期看護学実習 II	2前		6													9	
		周麻酔期看護学実習 III	2前		6													9	
		周麻酔期看護学課題研究	2通		4						○	1							1
				小計 (10科目)	—	0	32	0		—			1	0	0	0	0	0	9
高度実践看護師教育課程	専門科目	女性健康学特論	1前		2				○		1								
		女性健康学演習	1通		4					○	1		4	1					
		女性健康学課題研究	2通		4						1								
		周産期看護学特論	1前		2				○		1								
		周産期看護学演習	1通		4					○	1		4	1					
		周産期看護学課題研究	2通		4						1								
				小計 (6科目)	—	0	20	0		—			1	0	4	1	0	0	
高度実践看護師教育課程	専門科目	助産学特論 I -助産学概論-	1前		2				○		1							3	
		助産学特論 II -基礎助産学-	1前		2				○				1						
		助産学特論 III -胎児新生児学-	1前		1				○				1					1	
		助産学特論 IV -健康教育-	1前		1				○		1		1	1					

助産学実践科目	助産学特論Ⅴ-地域母子保健1-	1前	1			○				1					
	助産学特論Ⅵ-助産管理-	1前	2			○		1					2		
	助産学特論Ⅶ-地域母子保健2-	2後	1			○		1		2	1				
	助産診断・技術学演習Ⅰ-妊娠期-	1前	2				○			1					
	助産診断・技術学演習Ⅱ-分娩期-	1前	3				○			2	1		2		
	助産診断・技術学演習Ⅲ-産褥・新生児期-	1前	2				○			1	1		1		
	助産診断・技術学演習Ⅳ-ハイリスク-	1前	3				○			1					
	助産学実習Ⅰ-基礎-	1前	1					○	1	2	1				
	助産学実習Ⅱ-病院-	1後	9						1	2	1				
	助産学実習Ⅲ-ハイリスク-	1後	2						1	2	1				
	助産学実習Ⅳ-保健指導-	1後	1						1	2	1				
	助産学実習Ⅴ-助産所-	2前	2						1	2	1				
	小計(16科目)	-	35	0	0	-			1	0	4	1	0	8	
	合計(12科目)	-	39	294	0	-			10	3	5	1	0	40	
	学位又は称号	修士(看護学)	学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)								
	卒業要件及び履修方法						授業期間等								
本大学院に2年以上(優れた研究業績を上げた者については、1年以上)在学し、授業科目について、論文コースにあつては30単位以上、高度実践コースの高度実践看護師教育課程にあつては40単位以上、周麻酔期看護師教育課程にあつては46単位以上修得し、かつ、修士論文又は課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。 助産学実践コースは、61単位以上修得し、かつ、課題研究成果物を提出し、その審査及び最終試験に合格しなければならない。						1学年の学期区分			2期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						

教育課程等の概要															
(医学部看護学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	兼任・兼任	
基礎分野	人間発達論	1前	2			○			1						
	医療に関わる倫理学Ⅰ	1前	2			○								1	
	臨床心理学	1後	2			○								4	
	教育実践論	1前	2			○								2	
	奈良学	1後	1				○		1					2	
	次世代医療人育成論	1前	1				○		1					2	
	カウンセリング論	2後	1				○							2	
	情報科学	1通	2			○								1	
	哲学	1前		2		○								1	
	医療に関わる倫理学Ⅱ	1後		2		○								1	
	日本国憲法	1後		2		○								1	
	家族社会学	2前		1		○								1	
	国際情勢論	1前		2		○								1	
	異文化論	1前		2		○								1	
	小計(14科目)	—		13	11	0		—		2	0	0	0	0	17
国際理解	臨床英語Ⅰ	1前	2				○							6	
	臨床英語Ⅱ	1後	2				○							6	
	英語表現法Ⅰ	2前	1				○		1					2	
	英語表現法Ⅱ	2後	1				○		1					2	
	アジア文化論	1前	1				○							4	
	西洋文化論	1後	1				○							4	
小計(6科目)	—		8	0	0		—		1	0	0	0	0	15	
専門基礎分野	微生物学	2前	2			○								4	
	社会福祉と医療法規	1後	2			○								3	
	保健医療福祉行政論Ⅰ	4通	2			○								1	
	公衆衛生概論	3前	1			○								4	
	保健統計学Ⅰ	3前	1			○								1	
	生物学	1前		1		○								1	
	化学	1前		1		○								1	
	疫学	4前		2		○								2	
	保健医療福祉行政論Ⅱ	4通		2		○								1	
	保健統計学Ⅱ	3前		1		○								1	
小計(10科目)	—		8	7	0		—		0	0	0	0	0	17	
健康の理解	健康科学	1通	1			○								1	
	健康運動学	1通	1					○						1	
	人体構造学	1前	2			○								3	
	人体機能学	1前	2			○								2	
	生化学	1後	2			○								2	
	栄養学	1後	2			○								1	
	病態医学Ⅰ	1通	2			○								8	
	病態医学Ⅱ	1後	4			○			1					11	オムニバス
	病態医学Ⅲ	2前	4			○			1					19	オムニバス
	基礎薬理学	2前	1			○								1	
	臨床薬理学	2後	2			○								4	
小計(11科目)	—		23	0	0		—		2	0	0	0	0	51	
	看護学概論	1前	1			○			1						



看護学の基本	看護倫理学	2後	1			○			1					2
	看護援助の基本	1前	1			○			1			2		
	看護技術学Ⅰ	1後	1				○		1			3		
	看護技術学Ⅱ	2前	1				○		1			2		
	フィジカルアセスメント	1後	1			○			1			3		
	健康障害と看護	2前	1			○			1					
	ヘルスアセスメント	2前	1			○			1			2		
	看護過程論	1後	2			○			1			3		
	医療安全	3前	1			○			1					1
	基礎看護学実習Ⅰ	1通	1					○	1			3		
	基礎看護学実習Ⅱ	2通	2					○	1			2		
	小計(12科目)	—	14	0	0			—	3	0	0	3	0	3
地域・在宅看護学	在宅看護学概論	2後	2			○			1		1			1
	在宅看護学援助論	3前	2				○		1		1	1		2
	ヘルスプロモーションと健康教育	3前	2			○					1			
	在宅看護学実習	3後	2					○	1		1	1		
小計(4科目)	—	8	0	0			—	3	0	4	2	0	3	
成人看護学	成人看護学概論	2前	2			○			2					
	成人看護学援助論Ⅰ(急性)	2後	1				○		1	1		2		
	成人看護学援助論Ⅱ(慢性)	2後	1				○			1	1			
	成人看護学援助論Ⅲ(急性)	3前	1				○		1	1		2		
	成人看護学援助論Ⅳ(慢性)	3前	1				○		1	1				
	成人看護学実習Ⅰ(急性)	3後	3					○	1	1		2		
	成人看護学実習Ⅱ(慢性)	3後	3					○	1	1	1			
小計(7科目)	—	12	0	0			—	2	2	1	2	0	0	
老年看護学	老年看護学概論	2前	2			○			1		1	1		
	老年看護学援助論Ⅰ	2後	1				○		1		1	1		
	老年看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1	1		
	老年看護学実習	3後	4					○	1		1	1		
小計(4科目)	—	8	0	0			—	1	0	1	1	0	0	
小児看護学	小児看護学概論	2前	2			○			1					
	小児看護学援助論Ⅰ	2後	1				○				1			
	小児看護学援助論Ⅱ	3前	1				○		1		1			
	小児看護学実習	3後	2					○	1		2			
小計(4科目)	—	6	0	0			—	1	0	2	0	0	0	
母性看護学	母性看護学概論	2前	2			○			1					
	母性看護学援助論Ⅰ	2後	1				○				2			
	母性看護学援助論Ⅱ	3前	1				○				2			
	母性看護学実習	3後	2					○	1		4	1		
小計(4科目)	—	6	0	0			—	1	0	4	1	0	0	
精神看護学	精神看護学概論	2前	2			○				1				
	精神看護学援助論Ⅰ	2後	1				○				1			
	精神看護学援助論Ⅱ	3前	1				○			1				
	精神看護学実習	3後	2					○		1	1			
小計(4科目)	—	6	0	0			—	0	1	1	0	0	0	
看護学の発展と探究	緩和ケア論	4後	1			○			1					
	看護管理論	4前	1			○			1				1	
	リハビリテーション看護	4前	1			○			1	1		2		
	家族看護学	2後	2			○			1					1
小計(4科目)	—	5	0	0			—	3	1	0	2	0	2	
棟看護学	看護研究特論	4前	1				○		10	4	10	10		オムニバス
	看護研究	4後	2				○		10	4	10	10		
	統合実習	4前	2					○	8	3	9	7		
	災害看護論	4後	1			○								1
	チーム医療論	4前	1				○		1					

	国際看護論Ⅰ	4前	1			○			1	2					
	国際看護論Ⅱ	4通		1			○		1					1	
	小計(7科目)	—	8	1	0	—			10	4	10	10	0	2	
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2前	2			○			1						
	公衆衛生看護学活動論Ⅰ	2前	2			○			1		1			2	
	公衆衛生看護学活動論Ⅱ	2後		2		○				1					
	公衆衛生看護学活動論Ⅲ	2後		1		○			1						
	公衆衛生看護学活動展開論	4前		4		○			1	1	1				
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ	4前		2		○				1				5	
	公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ	4前		2		○				1	1				
	産業保健活動論	4前		1		○								1	
	学校保健活動論	4前		1		○								1	
	公衆衛生看護管理論	4前		2		○			1						
	公衆衛生看護学実習Ⅰ	4通		2				○	1	1	1				
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	4通		3				○	1	1	1				
		小計(12科目)	—	4	20	0	—			1	1	1	0	0	9
合計(12科目)		—	129	39	0	—			10	4	10	10	0	119	
学位又は称号		学士(看護学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係(看護学関係)							
卒業要件及び履修方法								授業期間等							
4年以上在学し、必修科目129単位と人間・社会の理解の選択科目から1単位以上、生活・環境の理解の生物学又は化学から1単位以上の131単位以上を修得すること。 保健師国家試験受験資格を取得するためには、「疫学」、「保健医療福祉行政論Ⅱ」、「保健統計学Ⅱ」、「公衆衛生看護学活動論Ⅱ」、「公衆衛生看護学活動論Ⅲ」、「公衆衛生看護学活動展開論」、「公衆衛生看護学保健指導論Ⅰ」、「公衆衛生看護学保健指導論Ⅱ」、「産業保健活動論」、「学校保健活動論」、「公衆衛生看護管理論」、「公衆衛生看護学実習Ⅰ」、「公衆衛生看護学実習Ⅱ」を履修し、卒業要件の単位数と併せて、156単位以上を修得すること。								1学年の学期区分				2期			
								1学期の授業期間				15週			
								1時限の授業時間				90分			

授 業 科 目 の 概 要			
(看護学研究科看護学専攻博士後期課程)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	看護学研究法	<p>(概要) 看護における研究の意義と特徴を理解し、研究における理論・概念枠組みおよび倫理枠組みの重要性、研究デザインと方法について理解を深める。特に量的研究方法として、実験研究、非実験研究デザインの原則、標本抽出法、データ収集法、測定用具に焦点をあて、研究目的に応じた推測統計法を理解する。質的研究方法としては、看護における質的研究の種類とその特徴、研究の動向を把握し自己の研究課題とその方法の検討につなげる。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(5 石澤 美保子／2回) 看護における研究の意義と特徴、倫理的課題を捉え、国際的視野を取り入れた研究課題について議論し探究する。</p> <p>(17 山上 優紀／2回) 量的研究方法における実験研究の設計や研究デザイン、研究プロセスについて教授する。</p> <p>(18 城戸 楓／1回) 量的研究方法における非実験研究デザインのデータ収集法や分析方法について教授する。</p> <p>(1 川上 あずさ／2回) 質的研究方法の特徴と種類、評価基準を教授するとともに、研究の動向を検討する。グラウンデッド・セオリー、現象学などの代表的な質的研究法の基盤となる理論、デザイン、データ収集、分析方法の概要を教授する。</p> <p>(8 小竹 久実子／1回) 質的研究方法におけるモデファイド・グラウンデッド・セオリー(M-GTA)を用いた解析について探究する。</p>	オムニバス方式
	看護の理論と概念	<p>社会背景やニーズの変化に対応して発展してきた看護や看護の理論を理解し活用するために理論の構成を理解する。そのために必要な理論の分析方法、理論構築の方法を検討する。また、概念を明確化し分析する力を養う。そのうえで、今後の看護の発展について探求する。</p>	
	看護病態学	<p>(概要) 呼吸器系および消化器系疾患、精神・行動・神経発達の疾患から代表的な疾患を取り上げ、その病態生理を深く、専門的に学習し、看護学の視点と統合させ、柔軟で高度な病態生理学的思考過程を創生する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(2 太田 豊作／4回) 精神・行動・神経発達の疾患を、精神・行動の疾患と神経発達の疾患に分け、それらの病態生理を教授し、その思考過程を探求し、症例検討を通じて、看護学の視点と統合させる。</p> <p>(3 山内 基雄／4回) 呼吸器系および消化器系疾患の病態生理を教授し、その思考過程を探求し、症例検討を通じて、看護学の視点と統合させる。</p>	オムニバス方式

		<p>(概要) 看護ケアシステム開発では、①健康生活および人生の最終段階における生活の支援プロセス (Advance Care Planning 含む)、②生活の質に影響を与える要因 (例：食事と睡眠の関連性や薬物治療)、③Patient Centered Care の視点で意思決定を支えるための組織・地域のあり方や体制構築、④援助者の質の向上をめざした医療従事者への教育プログラム開発、を探究する。また、アウトカム指標として有用な尺度の開発についても学習する。看護ケアとは、看護師をはじめ、医師、栄養士、臨床検査技師、公認心理師、薬剤師など多職種との協働、連携支援を指す。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(8 小竹 久実子／3回) 看護ケアシステム開発とは何かを問い、指標となる尺度の開発について探究する。</p> <p>(4 松田 明子/2回) 対象者の薬物動態の特徴を理解し、薬物治療過程にそった観察および看護ケアを探求し、看護ケアシステム開発に活用させる。</p> <p>(3 山内 基雄/3回) 生活の質に影響を与える要因、とりわけ睡眠の重要性に対する理解を深め、その理解を看護ケアシステム開発に活用させる。</p>	オムニバス方式
		<p>アカデミックライティングの技術を身に付けることを目的とし、論文の構造、文章の構成、文法やスタイル、引用の方法などを学ぶ。国際雑誌への投稿のために必要な一連の知識を習得する。またこれらの学習を通して論理的な思考を養い、学術的なコミュニケーションに参加できることを目指す。</p>	
		<p>高度化・専門分化および多様化していく医療・保健・福祉領域において、看護学の教育、研究、実践の分野で地域社会へ貢献、牽引するためには、基礎教育の場および臨床の場における看護人材を育成する教育的役割が求められている。そこで、今日の看護教育に至った社会的背景や制度的な変遷、看護師のキャリア開発について理解し、看護教育が社会のニーズに合わせて変化していることを学ぶ。また、看護教育を基礎教育、継続教育という側面からとらえ、生涯教育としての教育のあり方や課題を探究する。</p> <p>(オムニバス方式／全8回)</p> <p>(19 水田 真由美／4回) 看護教育の概念と目的及び歴史的変遷を通じて、看護教育が社会のニーズに合わせて変化していることを教授し、看護教育課程の教育方法と評価の理解を探究する。</p> <p>(20 笠松 由利/4回) 看護の継続教育と生涯教育を教授し、看護職のキャリア開発や看護人材育成と生涯教育における今後の課題を探究する。</p>	オムニバス方式
専 門 科 目	生 涯 発 達 看 護 学 分 野	<p>(概要) 生涯発達看護学及び学生が選択した看護学 (女性健康・助産学、小児看護学、高齢者看護学、健康科学 (心と脳の発達学)、精神看護学、公衆衛生看護学) の根幹となる考え方、最新の知見、用いる理論の傾向を概観し看護学の発展と、その役割について検討する。</p> <p>(2 太田 豊作) 人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から学習し、その両者の視点を統合させる。先進的な医療機器による脳科学を学び、個人の発達の理解を深め、発達の視点で人間を理解することを学ぶ。</p>	

		<p>(6 澤見 一枝、2 太田 豊作、10 升田 茂章、 21 沼田 景三、22 森崎 直子) 医療の高度化・専門分化及び多様化に応じて求められる学識を習得し、高齢者看護学の発展を牽引する創造的な研究を行うための知識を得る。</p> <p>(1 川上 あずさ) 子どもの発達を多角的に理解し、研究に関連する課題や現象を焦点化し、必要となる理論的源泉、諸理論と課題、研究方法の関係について検討する。</p> <p>(7 五十嵐 稔子) ウイメンズヘルスの概念と歴史を理解し、性差医療やプレコンセプションケアを中心に女性の健康課題や最近の研究について学ぶ。また、周産期看護や助産の実践に関する研究の動向を知り、根拠のある助産ケア実践について学ぶ。これらの学びのプロセスから、自身の研究課題を考える。</p> <p>(12 坂東 春美) すべての発達段階にある人々における健康課題の関連要因と、個人・家族・集団・地域における予防活動に関する理論や支援について探求する。さらに研究活動を通して公衆衛生看護学の見地から健康課題に応じた研究の意義を明らかにする。</p>	
	生涯発達看護学分野演習	<p>(概要) 学生が自己の関心のある現象や研究課題の焦点化を図ることを目的とした科目であり演習科目として開講する。各看護学における研究の動向を広く把握し研究方法を批判的にとらえ実施につながる研究方法を検討する。そのために領域を超えた同分野の教員(副指導教員に限定しない)と研究の動向や方法を共有・検討することを推奨する。</p> <p>(2 太田 豊作) 脳科学研究の各視点から人の心の発達を学習し、脳科学的視点と精神心理学的視点を統合し、人間の発達をどのように捉えるかについて学ぶ。</p> <p>(6 澤見 一枝、22 森崎 直子) 国際的視野から幅広く国内外の高齢者看護文献を検討し、これを基盤として創造的な研究計画を立案する。</p> <p>(1 川上 あずさ、13 山田 晃子) 小児の発達や障害に関連して行われている研究方法を概観し、方法論を批判的に検討することで自身の研究課題を解決するための研究方法を明らかにする。</p> <p>(7 五十嵐 稔子) 女性の健康や周産期看護学に関する知識を基盤として、女性とその家族が抱える問題や課題を明確化する。これらの過程から、自己の研究テーマの方向性を定めて課題解決に向けた取り組みを行う。</p> <p>(12 坂東 春美) 公衆衛生看護学における健康課題の解決のための研究計画の枠組みを考案する。さらに、公衆衛生看護関連のフィールドで実施する研究方法を明示し研究推進能力を高める。</p>	
療養・生活支援看護	療養・生活支援看護学分野特論	<p>(概要) 療養生活看護学及び学生が選択した各看護学(看護実践応用学、がん看護学、在宅看護学、基礎看護学、健康科学(睡眠学))の根幹となる考え方、最新の知見、用いる理論の傾向を概観し看護学の発展とその役割について検討する。</p> <p>(3 山内 基雄)</p>	

		<p>生命維持に必要な睡眠をサイエンスとして学ぶ。具体的には、①睡眠の意義、②ヒトの睡眠・覚醒調節、③睡眠の役割、④睡眠そのものが心身の健康に及ぼす影響、⑤逆方向性として様々な疾病が睡眠に及ぼす影響、⑥睡眠時無呼吸症候群を初めとした多彩な睡眠関連疾患を学び、得た知識を看護実践に応用するための研究を行う。</p> <p>(4 松田 明子、23 宮脇 美保子) 薬物治療を受ける療養者について医療安全や臨床薬理学的観点から理解を深める。療養者を取り巻く生活支援や服薬管理に関する研究や患者の薬物治療過程において意思決定支援等に関する研究等を知り、研究課題を明確にする。また、研究課題の評価や課題解決方法について探求する。</p> <p>(5 石澤 美保子、24 玉井 奈緒、25 貝谷 敏子、26 土田 敏恵) 褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学における患者、家族、患者を取り巻く現在の社会環境、医療環境を多角的に捉え、各分野における概念と最新の知識、看護・医療技術の動向を吟味し探究する。</p> <p>(10 升田 茂章) がん診療のプロセスにおけるがん患者およびその家族を取り巻く社会環境・医療環境、特徴的な臨床課題、求められる看護について国内外の文献をクリティークし自分の研究課題を焦点化し、独創性のある研究課題を見出す。</p> <p>(8 小竹 久実子、28 小澤 竹俊) 在宅での療養生活の現状と課題を見出し、支援のあり方を探究する。看取りの支援について、ディグニティセラピー、グリーンケアを含め、ロールプレイによる体験学習から学習を深める。個をとらえ、組織、そして地域へと視野を広げ、包括的な視点をもって、在宅看護とは何かをあらためて問いながら想像から創造へと発展させて具体化した構想を立案する。</p>	
	療養・生活支援看護学分野演習	<p>(概要) 学生が自己の関心のある現象や研究課題の焦点化を図ることを目的とした科目であり演習科目として開講する。各看護学における研究の動向を広く把握し研究方法を批判的にとらえ実施につながる研究方法を検討する。そのために領域を超えた同分野の教員(副指導教員に限定しない)と研究の動向や方法を共有・検討することを推奨する。</p> <p>(3 山内 基雄) 生命維持に必要な睡眠をサイエンスとして学ぶ。具体的には、①睡眠の意義、②ヒトの睡眠・覚醒調節、③睡眠の役割、④睡眠そのものが心身の健康に及ぼす影響、⑤逆方向性として様々な疾病が睡眠に及ぼす影響、⑥睡眠時無呼吸症候群を初めとした多彩な睡眠関連疾患を学び、得た知識を看護実践に応用するための研究を行う。</p> <p>(4 松田 明子、23 宮脇 美保子) 薬物治療を受ける療養者の生活とその支援について事例や文献から、課題を探求する。事例を通して、治療過程において生活や症状の変化を観察し、患者の支援方法を探索する。分析は、対象の現象について医療安全や臨床薬理学分野の視点等から分析を行う。</p> <p>(5 石澤 美保子、27 藤井 誠) 褥瘡学、創傷看護学およびストーマをはじめとした排泄管理学における患者、家族、患者を取り巻く社会環境、医療環境について国内外の文献をクリティークし自らの研究課題の焦点化および独創性に繋げる。</p> <p>(10 升田 茂章) 療養・生活支援看護学分野特論(がん看護学)で学んだがん看護学を充実・発展・革新させていくための研究課題について、概念・</p>	

			<p>理論を基盤として、がん患者およびその家族の抱えるさまざまな臨床上的問題および看護について実践的に探究する。さらに、これらの探求から具体的な支援方法を構築するための研究能力の向上を養うことを目指す。</p> <p>(8 小竹 久実子、29 木下 康仁、30 鈴鴨 よしみ、31 増澤 祐子)</p> <p>療養・生活支援をする対象の人生をストーリーラインで捉え、QOLを探究する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムティックレビューにより研究テーマを見出す。</li> <li>2. 質的データの分析から療養者と重要他者との相互作用をモデル化する質的研究法 M-GTA の探究をする。</li> <li>3. 生活の質を捉える健康関連 QOL について学習し、量的研究による探究をする。</li> </ol>	
<p>研究科目</p>	<p>生涯発達看護学分野</p>	<p>生涯発達看護学分野特別研究</p>	<p>(概要)</p> <p>研究の基盤となる概念枠組みや研究の基盤を明確にし、研究倫理に基づき研究課題、研究目的、研究方法を明確にする。選択した研究方法に即したデータ収集・分析・考察の研究プロセスを修得する。</p> <p>(2 太田 豊作)</p> <p>人の心の発達を脳科学的な視点と精神心理学的な視点の両方から探求し、特に幼児期から青年期に至る神経発達症・精神疾患に関する自律的な研究活動と論文作成ができるよう指導を行う。</p> <p>(6 澤見 一枝)</p> <p>様々な健康レベルにある高齢者、その家族や支援者を対象に、多様なニーズに対応する実践の発展を目標とし、以下の研究指導を行う。高齢者の認知症予防・メンタルヘルス・フレイル予防、家族支援。</p> <p>(1 川上 あずさ)</p> <p>自閉スペクトラム症 (ASD) 児を中心に発達障害の子どもとそのきょうだい、家族を支援するための課題の明確化と方策の検討に関する研究指導を行う。子どもと家族は発達する存在ととらえ、潜在している能力の発揮、関係性に注目して研究をすすめる。</p> <p>(7 五十嵐 稔子)</p> <p>現代社会における、女性の健康や周産期・育児期の課題解決に向けた看護・助産ケアの研究を行う。研究課題を解決するための適切な研究デザインを組み、自律的な研究活動と論文作成ができる能力を育成する。</p> <p>(15 上田 佳世)</p> <p>産科・周産期のヘルスケアや女性のライフサイクルの健康問題に関するエビデンスやナラティブな情報を“どのようにつくるのか”、“誰にどのようにつたえるのか”、“どのようにつかうのか”の視点で捉え、身近な臨床疑問を科学的方法で解決してエビデンスの創ることを目指す。主な研究テーマは Evidence-based Healthcare、医療の質、Quality improvement、診療ガイドライン、Childbirth care、Implementation research である。</p> <p>(12 坂東 春美)</p> <p>すべての発達段階にある人々の健康課題の関連要因と、個人・家族・集団・地域における予防活動に関する支援について研究課題を探究する。特に、受動喫煙防止ならびに禁煙支援に関する研究、児童虐待防止に関する研究を中心とした公衆衛生看護学の発展に資する研究指導を行う。</p> <p>(16 堀内 沙央里)</p> <p>地域住民の健康や QOL の向上を目指した公衆衛生看護学・公衆衛生学に関する課題の究明や解決について、自らテーマを選択し、自律的な研究活動や論文作成 (国際雑誌への投稿を含む) に必要な能力を修得できるよう指導を行う。</p>	

	療養・生活支援看護学分野	療養・生活支援看護学分野特別研究	<p>(概要) 研究の基盤となる概念枠組みや研究の基盤を明確にし、研究倫理に基づき研究課題、研究目的、研究方法を明確にする。選択した研究方法に即したデータ収集・分析・考察の研究プロセスを修得する。</p> <p>(3 山内 基雄) 生命維持および心身の健康に不可欠である睡眠をキーワードに掲げ、不適切な睡眠が心身に及ぼす影響、様々な疾患や病状が睡眠に及ぼす影響、さらには睡眠時無呼吸症候群をはじめとした多彩な睡眠関連疾患診療における“アンメット・メディカル・ニーズ”を看護師の視点から見つけ出し、看護実践介入に必要なエビデンス構築のための研究指導を行う。</p> <p>(4 松田 明子) 臨床看護学では、①薬物治療を受ける療養者を取り巻く生活支援や服薬管理に関する課題について医療安全や臨床薬理学的分野の視点で捉えた研究。②患者の薬物治療過程において意思決定支援等に関する研究。③援助者に対する安全管理や臨床薬理学分野の視点から看護教育に関する研究について主に行う。この研究実践を通して、地域および施設の連携体制の構築の課題を明確にし、その調整を図る能力を育む。</p> <p>(5 石澤 美保子) 褥瘡学、創傷管理学およびストーマをはじめとした排泄管理学の概念や理論を学び、社会実装を目指すべく研究課題の発掘、自律的な研究活動の進め方、論文作成を指導する。</p> <p>(9 松田 常美) 皮膚・排泄ケア領域の看護実践における事象や創傷感染に関連する研究課題について、統計学的に考察することを中心に遂行する一連の過程から、研究課題の解決方法や原因を探索し、エビデンスの提供と看護実践に活用できる指標の構築につながる研究指導を行う。</p> <p>(10 升田 茂章) 糖尿病や心疾患、がんなどの慢性的の病と共に生きる人とその家族の健康に関する看護について、セルフケアの向上や生活の質向上を図ることができるようにエビデンスに基づいた看護の構築について研究指導を行う。</p> <p>(8 小竹 久実子) 在宅看護療養生活や支援におけるリサーチクエスチョンを明らかにして、新規性、独創性、発展性のあるエビデンスに基づいた質的/量的研究を探究する。</p>	



公立大学法人奈良県立医科大学大学院看護学研究科看護学専攻  
博士後期課程設置認可等に関わる組織の移行表

令和5年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和6年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
公立大学法人 奈良県立医科大学				公立大学法人 奈良県立医科大学				
医学部				医学部				
医学科 (6年制)	100	—	670	医学科 (6年制)	100	—	655	定員変更 (△15)
看護学科	85	—	340	看護学科	85	—	340	
計	185	—	1,010	計	185	—	995	
公立大学法人 奈良県立医科大学大学院				公立大学法人 奈良県立医科大学大学院				
医学研究科				医学研究科				
医科学専攻 (M)	5	—	10	医科学専攻 (M)	5	—	10	
医科学専攻 (4年制D)	40	—	160	医科学専攻 (4年制D)	40	—	160	
看護学研究科				看護学研究科				
看護学専攻 (M)	10	—	20	看護学専攻 (M)	10	—	20	
				看護学専攻 (D)	2	—	6	課程変更 (認可申請)
計	55	—	190	計	57	—	196	